

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	きらり倉敷		
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	令和7年1月9日		～ 令和7年1月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月15日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間でお子さんの状況を評価し、個々に合わせた個別支援計画を立案、遂行すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援管理責任者を中心に計画の見直し、立案をの際、チーム(保育士、児童指導員、作業療法士)で会議を行っている。</li> <li>・子どもたちの発達検査の結果、遊びや生活の様子、園や家庭での様子、保護者ニーズを、チームで共有し、計画立案を行っている。</li> </ul>	<p>毎日の朝礼、終礼を継続し、子どもの姿や、支援内容、家庭や園での状況を職員間で共有していきます。</p> <p>また、それぞれの専門性を高められるように法人内外の研修に積極的に参加したり、職員個々の年間目標を立てて遂行したりしていきます。</p>
2	保護者向け勉強会の開催が定期的にあること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニング、就学勉強会、サポートブックやかがやき手帳の書き方説明会、ビジョントレーニング等を開催している。</li> <li>・保護者の方が参加しやすい時間帯を設定したり、日程の合わない方へは個別に説明の時間を設けたりしている。</li> </ul>	保護者の知りたいこと学びたいことを調査し、勉強会を設定していきます。
3	活動プログラムが固定化しないように留意している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出来た」と子どもたち自身が感じられるように反復練習を大切にしつつ、新規活動、行事活動にて経験の幅を広げられるようにプログラムを工夫している。</li> <li>・園行事同様に季節ごとの活動を設定し、イレギュラーな活動に対してどのような支援があると、より参加を楽しめるか評価し準備を行っている。</li> </ul>	子どもたちのやってみたいことも調査し、活動に反映させていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の中で他の子どもと活動する機会がほとんどない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に数回地域の公園を使用している程度である。</li> <li>・全園児、地域の園に所属しているため、積極的に地域の園と交流する計画を立てていなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物、公園等地域資源を活用し生活する中で家族が困難さを感じていることを耳にすることがあります。例：迷子になる、購入できず癪がある、他者と共有できない等</li> <li>地域生活の中で、活かせる行動をきらり内で練習を行い、公園遊び等で実践したり、家族でも取り組みやすい方法を一緒に考え提案したりできるようにしていきます。</li> </ul>
2	保護者同士の交流の機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け勉強会の開催は行っているが、保護者同士が悩みを共有したり雑談したりできる機会が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会とは別立て、座談会やワークショップを計画し、保護者同士のつながりが持てるようにしていきます。</li> </ul>
3	子どもの活動スペースに手狭さがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊戯室や園庭等、子どもが思い切り身体を動かすことのできる環境が事業所内にない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊戯室や園庭がないため、室内遊具の活用、公園遊びの設定等を行い運動面の評価や支援を行っています。</li> </ul>